



県内大学の外国人留学生コロナ禍でのアンケート調査結果

1 概要

ふじのくに地域・大学コンソーシアムでは、各大学の協力のもと県内の大学に通う外国人留学生にコロナ禍でのアンケート調査を行いました。

2 調査概要

- (1) 対象・手法 県内大学に通う外国人留学生を対象として、インターネットによるアンケート調査を実施
- (2) 実施期間 令和3年2月15日～3月9日
- (3) 回答件数 84人

3 調査結果

(1) 結果概要

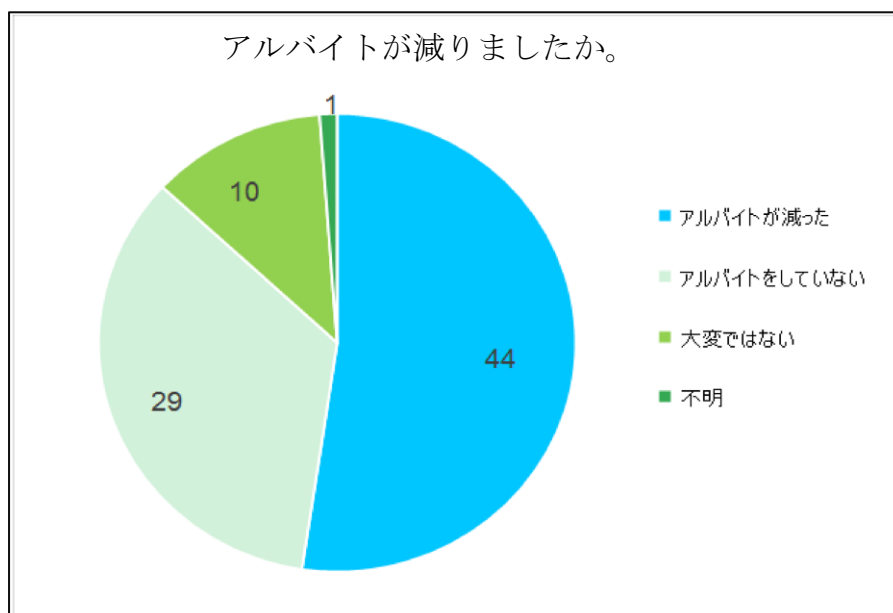
- ・新型コロナウイルス感染症の影響を受けている外国人留学生の実態が明らかとなった。

(2) 調査結果

(単位：人)

○アルバイトについて

- ・アルバイトが減っている学生が約半数おり、アルバイトが減ったと回答した学生のうち、減少額は月2万円～7万円である。

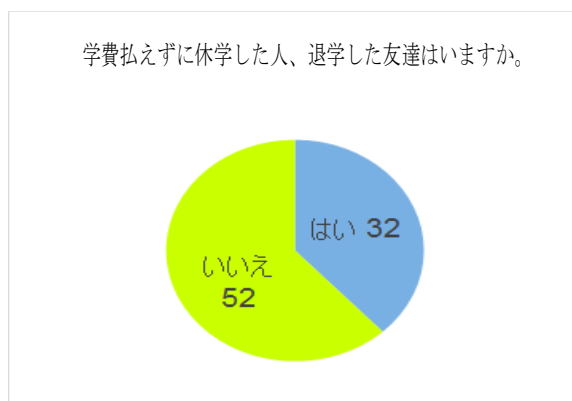
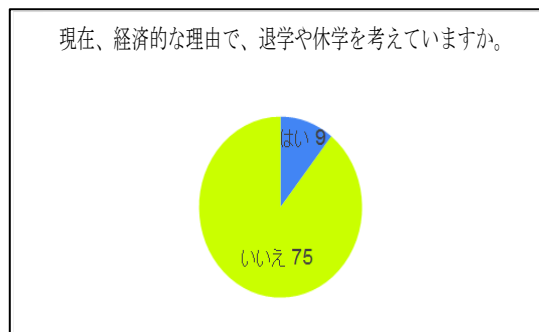
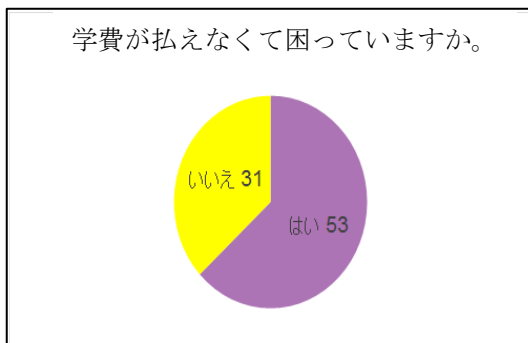


<アルバイトについての声>

- ・仕事がなくなりました
- ・今まで、4万ぐらいを減りました。ですが、来月アルバイト先の売り上げが悪くなって、閉店することになりました。
- ・4万円減り、13時間減りました。
- ・12時間減ってしまいました。
- ・5万円減らしました、週に10時間減らしました。
- ・コロナのせいで、4月に藤枝に来てから6月までアルバイトで見つからないです。 等

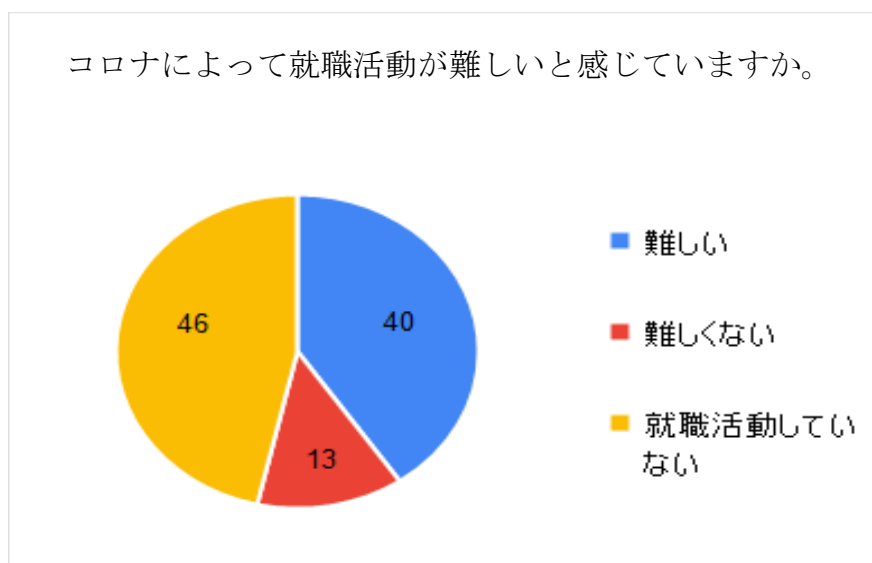
○学費について

- ・学費が払えず困っている学生は、約 60%いるものの、経済的な理由で退学や休学を考えている学生は、約 13%と少ない。一方で、学費が払えずに休学や退学した友人がいると回答した人の割合は、約 40%となっている。



○就職活動について

- ・就職活動している学生のうち、約 77%の学生が就職活動が新型コロナウイルス感染症の影響により難しいと回答している。
- ・企業の経営状況の悪化により、採用数の削減や就職活動のオンライン化による情報不足という点が難しいと回答する学生が多かった。



4 対応

今回の調査結果から、コロナ禍での県内大学の外国人留学生の実態が明らかになったことから、就職支援についてはコンソーシアムの各種事業を通じて支援をより一層強化していく。また、経済的に困窮している学生への支援については、国の各種制度をコンソーシアム SNS を通して周知していく。